20m11HO提出課題例

近代教育思想と教授学の成立

教育方法論 m 第　回　　テーマ「　　」　班　番号　　名前

(1)「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

・リアリズムと教育

重視された知識

→近世以前

・神の啓示によって与えられるもの

→16-17 世紀のヨーロッパ

・有用な知識→リアリズム

例)活版印刷、望遠鏡、顕微鏡、蒸気機関

・科学的思惟方法

→一切の偏見や俗見を捨て去って素直に自然を観察し、その結果に基づいて帰納的に理解するべきであると説いた。→知は力なり[イギリスの哲学者ベーコン]

・コメニウスの教授学

・考え方

→自然を知る究極の目的は神を知るためである

・世界平和の実現のための学校

→学校はパンソフィア

・パンソフィア

→正しい信念・道徳・知識を体系化したもの

→異なる信念・道徳・知識が相対立するから、憎悪・戦乱が起こり続けるのであり、正しい単一の信念・道徳・知識を万人が抱くなら、憎悪も戦乱も無くなる

→コメニウスの教授学は自然の方法とも呼ばれている。

・能力観の転換

・19 世紀以降の近代社会を用意した啓蒙思想

→超自然的な力を退け、リアリズムのように経験を重視しつつも、自然の光によって世界を見通し、よりよい世界を創り出そうという思想である。

→能力を問題解決に結びつけている意味で、機能的能力を重視する。

・子ども観の転換と消極教育

・消極教育

→個々人の自然本性を十全に具現させる方法

・自然本性→全ての人間に神がそれぞれ与えた本質的属性

・ルソーにとっての教育目的

→自らの行為を自らが決定する自律的な主体形成である

・方法:人間が生まれながら持っている自然本性が発現しようとするのを保護することであってこれに手加えたり干渉したりすることでは無かった。

消極教育とは人間の言葉や技巧などが消極的に働く教育のこと→事実の教育、必要の教育とも呼べる

教育方法論 m 第　回　　テーマ「　　」　班　番号　　名前

・直感教授
　→ペスタロッチの調和的な人間完成のための方法であるメトーデの中心であり、知識技能を言葉によって教えるという方法ではなく、眼や耳や手といった感覚器官を通じて経験させ習得させるといった方法

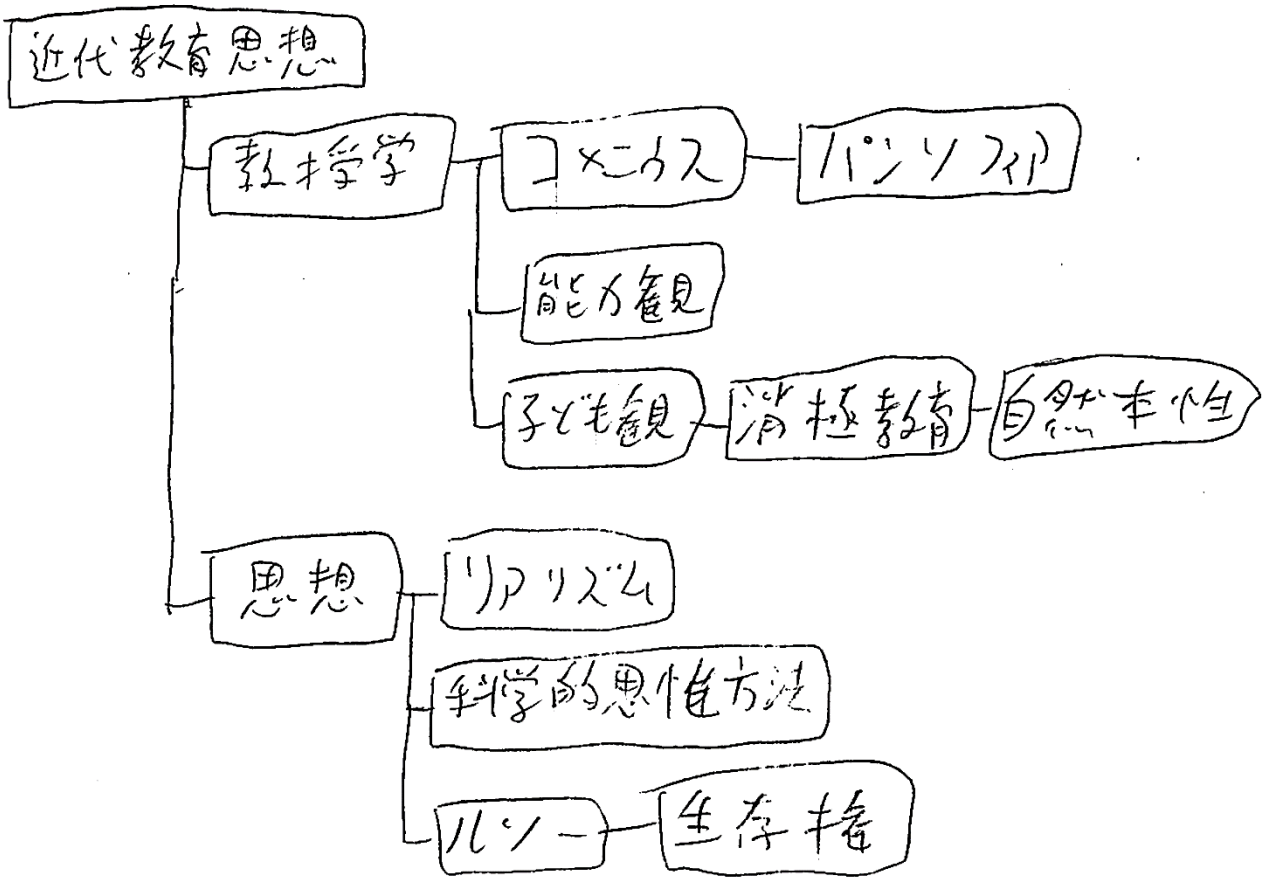
⑵ その他のネット資料から長所・短所
全体の要点●
ヨーロッパ近代の思想の特徴
・生存のための権利を有する
　→生きる力を形成する教育(ルソー)
　　→欲求の教育、欲求を満たす力の教育という二面性を持っている。

⑶ 自分の意見
全体の要点●
現代では当たり前である生存権がないからこそ当時､画期的な教育思想だったのだなと思うような教育もあれば、現代でも使用されている教育学の元となっている思想が存在していたので、この頃の教育研究があったからこそ現代で多種多様な教育方法が生まれたのだなと考えました。

⑷ 出典(文献名、url 等)

⑴ 文部科学省(2017).「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
⑵ 文部科学省(2018).「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
⑶ http://www.tufs.ac.jp/st/club/sankichi/kyousyoku/shisoushi/shisoushi08.html

テーマ「近代教育思想と教授法」



教育学の体系化と授業の組織化

教育方法論 m 第 11 回テーマ「教育学の体系化と授業の組織化」　３班

⑴ 「新しい時代の教育方法」から
全体の要点●教育では単に知識を身につけるだけではなく、人間性や協同性を高めるためでもあるという考えが一般的。新教育活動を区切りに、そういった教育法が多く考え出された。

ポイント 1)ヘルバルトは教育の目的を、道徳的な品性を強める「品性の陶冶」とした。教授もその目的を達成するための教育的教授だと主張されている。
2)手を使い手を通して深く考える構成的作業である手工を正科必修としてシグネウスは位置づけた。サロモンはそれに共鳴、教育的スロイドとして教材化。（スロイド：今でいう技術・家庭科？）
3)19 世紀末に欧米先進諸国にて生起した新教育活動は、静的・画一的な一斉授業から興味関心に基づく主体的で作業を中心とした教育法がよしとされてきた。
4)デューイは子どもが協同的に子どもに導かれるためにはオキュペーション（専心活動）またプロジェクト活動が必要とされていると述べた。

⑵ 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から
全体の要点●シグネウスは子ども時代の自身の経験と過去の資料から、形式陶冶の手段として手作業をすることに目を付けた。

ポイント 1)手工科を初めてカリキュラムに導入したのはフィンランド。その大きな役割を果たしたのはシグネウス。
2)シグネウスは彼自身が子ども時代より彼の父によっていろいろな作業場に連れていかれた経験をもつ。12 歳には木工や旋盤に関わる様々な技能を身につけていた。
3)博愛主義者たちはシグネウスが試す前に学校で手仕事を習わせることをすでに試していたが、教養とは結び付けずに、ひとつの熟練技能として扱ってしまっていた。
4)フレーベルによると、子どもは外界の対象物を理解し描写することだけでは不十分だとし、十分とするにはできるだけ早く創出活動を行うべきだとした。シグネウスはそれに加えて高学年の生徒に適する手作業を教育に組み込もうとした。

⑶ その他のネット資料から長所・短所
全体の要点●デューイは従来までの画一的な学習法を指摘し、仕事による学習を子どもたちに体験させるため、オキュペーションを提唱した。

ポイント 1)デューイは受動的な態度や子どもたちの機械的な集団化、カリキュラムと方法の画一化を旧教育の象徴とし、転換を主張した。
2)生活のなかで行われていた羊毛刈りやろうそく作りなどの産業をとおした教育が、産業の集中化と労働の分業化により生活の中から失われていた。
3)オキュペーションとは、デューイによれば、社会生活において営まれる仕事を再現したもの、もしくはそれに類似した形態の活動である。。
4)家庭の仕事は子どものために特別として選ばれたものではない。仕事を通した付随的な学習を目的とし、理想的な家庭環境を整えたのが「生活する場としての学校」であり、デューイはそれを目指した。

⑷ 自分の意見

教育方法論 m 第 11 回テーマ「教育学の体系化と授業の組織化」　３班

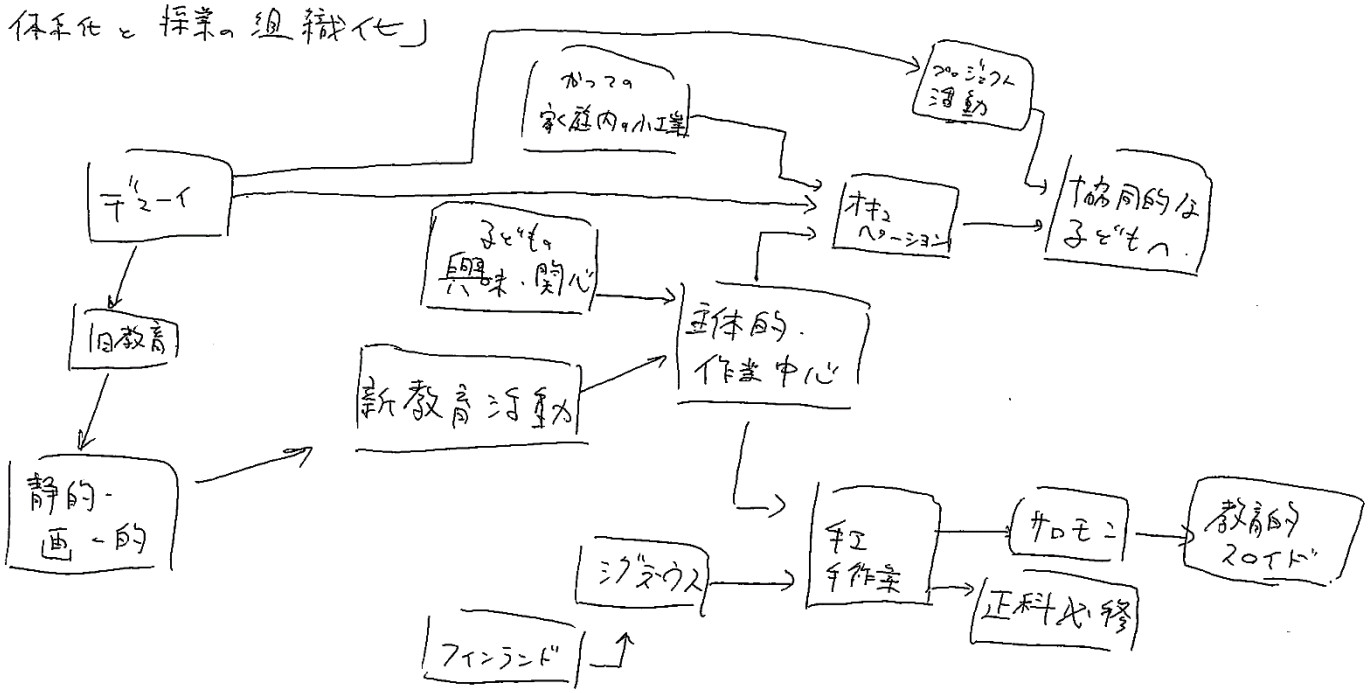
全体の要点●

ポイント 1)手仕事などをとおして学ぶことは非常に子どもにとって有用なのだろう。
2)手仕事によって起こった疑問などを子ども同士や教師との間で対話することにより様々な効果を得ることができる。
3)現在にも実技教科として技術・家庭や体育、音楽や美術などがあるのがそのためだろうか。
4)今でも画一的な指導法が残りがちな部分はないだろうか。アクティブ・ラーニングが唱えられているのもうなずける。

⑸ 出典(文献名、url 等)

⑴ 横山悦生「「教育的スロイド」の成立をめぐって」
https://nagoya.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=10559&file_id=17&file_no=1
⑵ 森久佳「デューイ・スクールのカリキュラムにおける「仕事（occupation）の位置づけについて」」
https://www.konan.ac.jp/images/library/bulletin/k-No36-6.pdf

「教育学の体系化と授業の組織化」



カリキュラム研究の成立と展開

教育方法論 m 第 11 回 テーマ「カリキュラム研究の成立と展開」3 班

⑴ 「新しい時代の教育方法」から
全体の要点●様々な研究者が今までのものを、賛同しあったり、批判しあったりして広がっていったのが現在のカリキュラム研究となっている。

ポイント 1)同一の評価基準に基づいた問題による測定法(客観テスト)を使う科学的測定運動が広がる。
2)大人社会の活動分析を行って、子どもが社会化するために必要で有用な知識と技能を確定しようとした。
3)学習単元の設定
4)形式的評価の理論が登場
5)1 人ひとりの興味・適正・能力などを尊重しそれぞれに適切な学習機会を保障するという「人間の教育化」が求められるようになる

⑵ その他のネット資料から長所・短所
全体の要点●日本のカリキュラム学習指導要領で決められていて、それも 10 年毎に改訂し時代の変化についていけるように見直しされて行っている。

ポイント 1)教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準 → 学習指導要領
2)学習指導要領も 10 年毎に改訂されている
3)グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質や能力について見直している。

⑶ その他のネット資料から長所・短所
全体の要点●日本の教育課程の目標に関しては変わらず、現行の学習指導要領の考え方は、この変化が激しい社会に求められている「生きる力」を育むことである。

ポイント 1)教育の目的は、一人一人の国民の人格形成と国家・社会の育成の 2 点であり、いかに時代が変わろうとも変わらない
2)「生きる力」を育むということを優先
3)知識・技能を活用し、考えたり、表現したりする力を育成することが課題

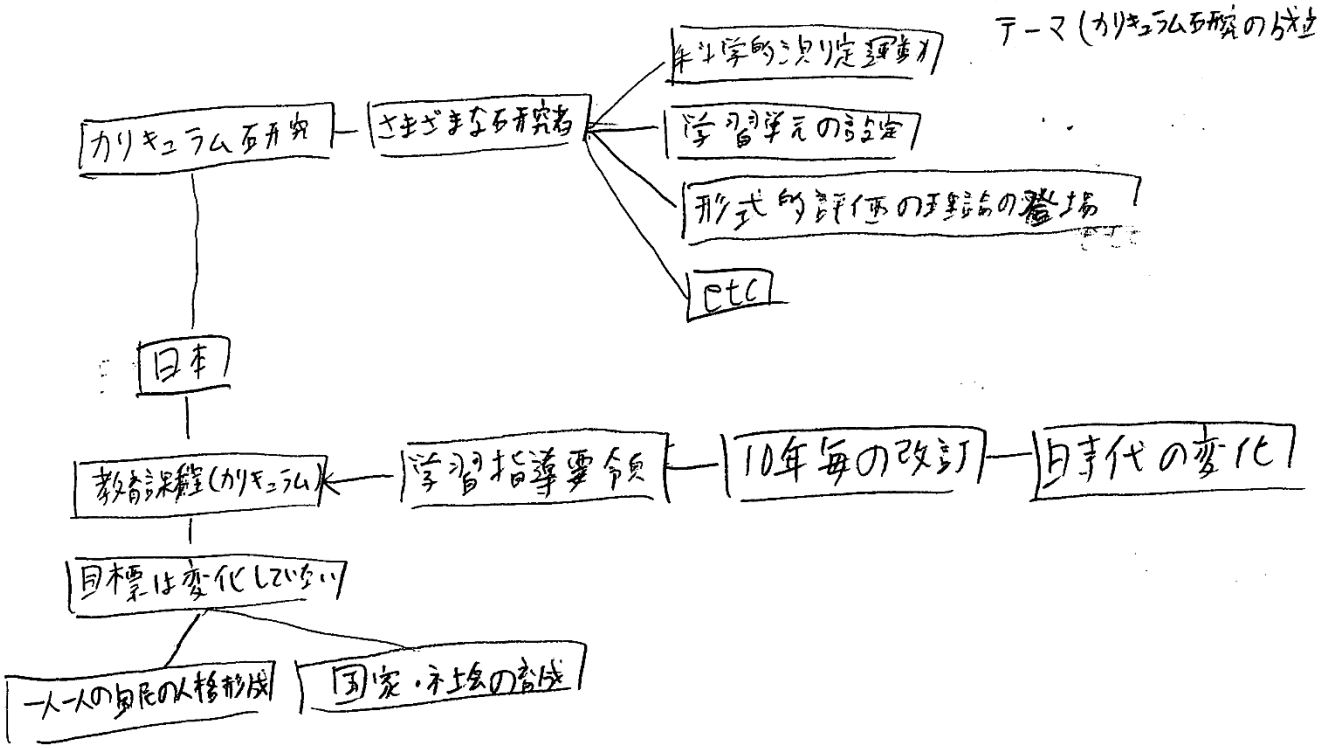
⑷ 自分の意見
全体の要点●昔からカリキュラムに関してはたくさんの研究がなされてきていて、現状でも学習指導要領が改訂されていることから社会の変化に合わせて変化していっていることが分かる。

その他
カリキュラムと教育課程の違いについて
カリキュラムは教育課程よりもより広い意味でつかわれることもある。

⑸ 出典(文献名、url 等)
⑴ 文部科学省. 「学習指導要領とは何か」「学習指導要領の基本的なこと」.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304372.htm
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm
① 数式は y=ax^2+bx+c でも $y = ax^2 + bx + c$ でも よい ②タイトル・ファイル名・メールタ

(2) 文部科学省.「教育課程をめぐる現状と課題」.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1346330.htm
(3) wikipedia「カリキュラム」
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A9%E3%83%A0

テーマ（カリキュラム研究の成立と展開）



ICT活用例

ICT 活用例

1 班

1. 単　　元

技術・家庭

2. テーマ

ディジタル作品の設計・制作
修学旅行での感動を伝える

3. ICT 活用のねらい

・設計・制作を通じて、メディアの特徴やその複合方法、著作権等を知り、情報を表現、発信できるようにする。

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 ・作品上映のための電子黒板 ・生徒用 PC で動画編集ソフトウェアを使って編集	ICT 活用の手順 〇過去の作品を鑑賞し工夫点をあげる ・ 〇制作のポイントに沿って編集作業を行う ・動画と静止画のバランス ・BGM の効果 ・文字の色・フォント 〇他者との相互評価 〇編集作業について自己評価する ・作業意欲 ・メディアの複合や表現・発信 ・教師の支援は十分であったか ・次の作業課題を確認 イメージ図など 	 〇データ量等に配慮したメディアの選択 〇メディアを活かした適切な利用 〇BGM の著作権や使用する写真の肖像権などの知的財産についての配慮

ICT 活用例

1 班

備考

準備物　　電子黒板・生徒用 PC・動画編集ソフトウェア

授業形態と工夫　作業自体は個人だが出来上がったところを互いに見せ合ってアドバイスを交換することによって学習意欲を高めている点

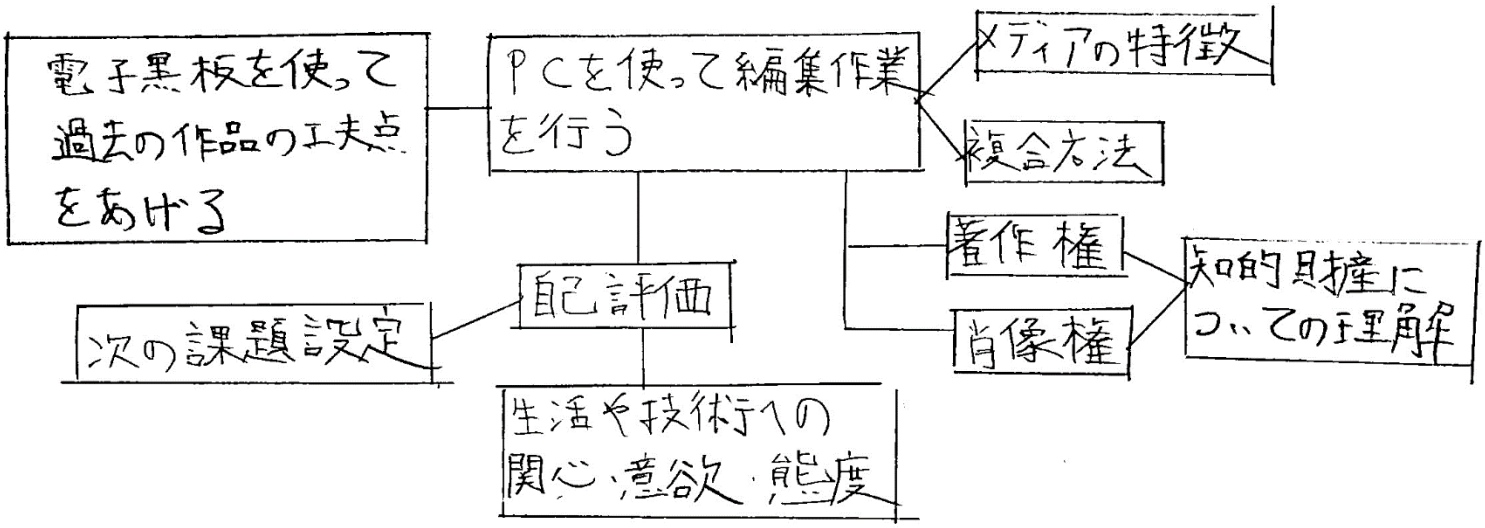
5. 出典・参考等

・http://eduict.javea.or.jp/pdf/h23/58.pdf

・

・

「ICT活用例」


電子黒板を使って過去の作品の工夫点をあげる
PCを使って編集作業を行う
メディアの特徴
複合方法
著作権
肖像権
知的財産についての理解
配評価
次の課題設定
生活や技術への関心・意欲・態度

ICT 活用例

5 班

1. 単　　元

英語（リスニングや発音）

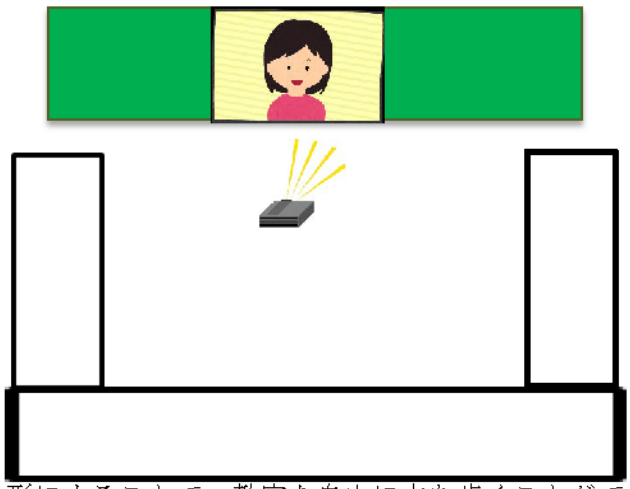
2. テーマ

本場の英語をきいて、リスニングや発音を学ぶ

3. ICT 活用のねらい

・日本人の教師だと発音していてもわかりにくいと思うので、外国人の先生から発音を学ぶ。

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (授業) この学校にはネイティブの先生がいない。	ICT 活用の手順 この授業は長文を和訳する、文構造を理解するのではなく、気軽に英語を使い英語に慣れてもらうのを目的としている。 この授業はネイティブの先生がビデオ通話などを使って授業をし、補助目的で日本人の先生にも教室にいてもらう。 もちろん授業態度も評価に入るが、授業中に積極的に答えたや質問に答えるとポイントがもらえるようにして最終授業で合計何ポイントだったか、言ってもらいポイントも評価対象とする。 授業内容 ・簡単な英語の会話などをする。 ・英語で質問されて英語で答える。 ・最初は英語の自己紹介文などを作って発表する。最後の授業では英語でプレゼンをする。また、短い英語の劇をする。と言った発表の場を作る。 授業形態  コの形にすることで、教室を自由に立ち歩くことができたり、画面から教室の雰囲気が見やすいため。	○クラスが発言しやすい環境を作る。
備考		

ICT 活用例

5 班

使用教科書　「・・・」(○○社) 準備物　　・・・ 授業形態と工夫　・・・

5.　出典・参考等

・

・

確認問題10

教育方法論 m　　第 10 回

確認問題 10

(1)　協同的探究学習の研究からまとめられた「わかる学力」の形成につながる学習の要点を４つ挙げよ。

・自分なりのアプローチで効率に解決できる導入問題
・個別に探究する時間を保障する
・仲間との協同場面を設定する
・展開問題のような問題を再設定し再び個別探究

P163.

(2) 次の「できる学力」と「わかる学力」に関する文章の空欄を埋めよ。

「(できる　)学力」の手続き的知識やスキルの(獲得　)メカニズムは(繰り返し　)による(自動化　)である。一方、「わかる学力」の(概念的)理解の(深化　)メカニズムは、知識と知識の関連付けによる(知識構造　)の精緻化や(再構造化　)である。既存知識と(新たな知識)を結び付け、また既存知識同士に新たな結びつきを見出すことで、物事をとらえる(枠組み　)を変えていくことが「わかる」ことの本質であると考えられる。

P145.

(3) 定型的な手続きを獲得することが難しい子どもに対する対応について、簡潔に説明せよ。

個に応じた指導

1. 各児童の正誤の誤りやパターンや原因をフィードバック、

2. チームティーチングにおける対話的説明

(4)「日本の子どもの学力の特質」「手続き構成・適用学習」「協同的探究学習」のうち１つについて簡潔に説明せよ。

特質

できる学力 > わかる学力

定型的な課題 → 高い正答率

記述形式の問題 → 高くない正答率

**) 確認問題 02 を自己評価し、
気づいたこと、感じたことをのべよ

■５段階自己評価（　4　）

■

(3)のチームティーチング
小人数の対話的説明について
高校で行われていた。
効果は学生の時から感じていた。

学力をどう高めるか

学力をどう捉えるか

できる学力 > わかる学力

知識構造の精緻化

既有知識と結びつけ

概念的理解の深化

練習による自動化

手続き的知識

スキルの獲得

定型的な手続き

個に応じた指導